



関西地域における主な投資の状況

2023年4月6日

I. 関西地域における主な投資の状況 ①

※各社プレスリリース、報道等を元に関西経済連合会にて作成

1. 蓄電池・半導体製造装置

①車載用リチウムイオン電池の生産能力の増強 (パナソニック エナジー(株))

場所:和歌山県紀の川市 生産開始:2023年度中

②トヨタEV向けリチウムイオン電池の生産能力の増強

(プライムプラネットエナジー&ソリューションズ(株))

場所:兵庫県姫路市 投資額:4,000億円の内数 生産開始:2024年

③半導体製造装置の工場新設 (株)SCREENホールディングス)

場所:滋賀県彦根市 投資額:100億円 生産開始:2023年1月

2. 医薬品・バイオ

④有事のワクチンの受託生産体制の整備 (JCRファーマ(株))

場所:兵庫県神戸市 投資額:約200億円 竣工:2025年4月予定

⑤血漿分画製剤の製造施設の新設 (武田薬品工業(株))

場所:大阪府大阪市 投資額:1000億円規模 稼働予定:2030年頃(予定)

⑥バイオものづくりの能力増強 (株)カネカ)

場所:兵庫県高砂市 投資額:約150億円 稼働予定:2024年1月



I. 関西地域における主な投資の状況 ②

3. GX

⑦液化水素のサプライチェーンの構築・水素運搬船（川崎重工業株）

場所：兵庫県神戸市 実証開始：2015年度～

⑧水素ガスタービンの早期商用化（三菱重工業株）

場所：兵庫県高砂市 稼働開始：2023年度

⑨大型電炉での高級鋼製造技術の開発（日本製鉄株）

場所：兵庫県姫路市 投資額：280億円 稼働開始：2022年10月

4. 研究開発拠点

⑩グローバル技術研究所（株クボタ）

場所：大阪府堺市 投資額：840億円 稼働開始：2022年9月

⑪技術開発部門の集約（ニデック株）

場所：京都府向日市 投資額：2,000億円 時期：～2030年

5. 万博を見据えた観光・インバウンド投資

⑫空港の旅客受け入れ能力拡大（関西エアポート株）

場所：大阪府泉佐野市・泉南市・田尻町 投資額：700億円
グランドオープン（主要機能完成）：2025年春

⑬富裕層向けホテルの開業（株阪急阪神ホテルズ）

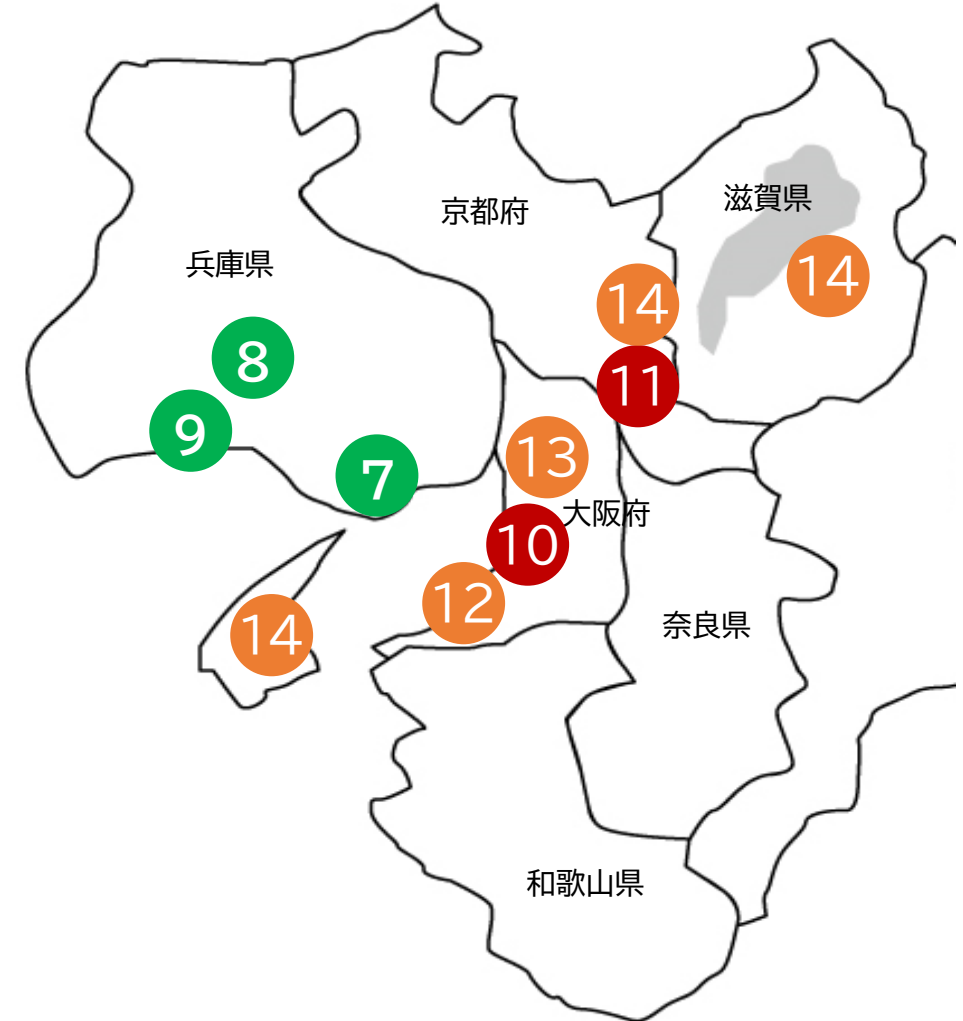
場所：大阪府大阪市 開業時期：2024年度下期

⑭旅館の改装や新規開業（株ホテルニューアワジ）

場所：兵庫県洲本市、京都府京都市、滋賀県彦根市 開業時期：2024年頃までに



※各社プレスリリース、報道等を元に関西経済連合会にて作成



【個別事例1】 車載用リチウムイオン電池の生産能力の増強（パナソニック エナジー(株)）



円筒形車載電池 左から1865、2170、4680

場所:和歌山県紀の川市
投資額:700億円
稼働開始:
2023年度中に生産性の
検証・量産開始

【特徴】

- 電気自動車(EV)普及を視野に、世界最高のエネルギー密度を誇る車載用電池の現行モデル「1865」と「2170」の製造ノウハウを生かし、次世代高容量の規格として期待される新型車載用リチウムイオン電池「4680」の量産開始を見込んだ生産設備の増設を予定。
- 和歌山工場の建屋を改修して原動設備と生産設備を設置し、2023 年度中に生産性の検証および量産を開始する予定。敷地面積は約10万平方メートル。

【個別事例2】 液化水素サプライチェーンの構築・水素運搬船（川崎重工業(株)）



（提供：川崎重工業）



（提供：HySTRA）

場所：兵庫県神戸市
実証開始：2015年度～

【特徴】

- カーボンニュートラルを実現する水素の大量消費社会を見据え、水素製造・液化・出荷・海上輸送・受け入れまでの一貫した液化水素サプライチェーン実証を、NEDOからの助成事業として、岩谷産業(株)、シェルジャパン(株)及び電源開発(株)とともに「技術研究組合CO2フリー水素サプライチェーン推進機構(HySTRA)」を設立して実施。
- 同社では、大型液化水素タンクを搭載する液化水素運搬船や、大規模な液化水素受入基地等の実証及び商用化を目指す。

【個別事例3】 グローバル技術研究所 (株)クボタ



場所:大阪府堺市
投資額:840億円
稼働開始:2022年9月

【特徴】

- 農業機械・建設機械をはじめとする製品・基幹部品および材料(素材)や解析などの基盤技術、IoT・ICT・AI等の高度データ処理技術、カーボンニュートラル関連技術等の開発機能を有する。各地域の研究開発拠点の連携、さらなる事業拡大に向けた製品開発や技術開発の強化を進めている。
- 約18,000㎡におよぶワンフロアにエンジニアを集約し、部門間の交流により新たなイノベーションを創出する設計・研究棟、大型農機の走行試験が可能な一周1.5kmの広大なテストコース、機械の多種多様な動作テストがすぐに行えるテストフィールド等を完備。

【個別事例4】 空港の受け入れ能力拡大（関西エアポート(株)）



国際線保安検査エリアでの「スマートレーン」の導入イメージ
処理能力は：約4,500人／時から約6,000人／時に拡大。

場所：

大阪府泉佐野市・泉南市・田尻町

投資額：約700億円

稼働開始：

2022年10月

2025年春 グランドオープン

→万博に向けて関西・日本の
ゲートウェイとして機能

【特徴】

○2025年の日本国際博覧会(大阪・関西万博)開催を見据え、「第1ターミナル」(T1)を大幅にリノベーション。

○ファストトラベル(自動チェックイン機やスマートレーン)の導入やエリア配置見直し等により、国際線の受け入れ能力を1,200万人(開港当初計画)から3,000万人(T1リノベーション完了時点)まで拡大する計画。

○さらに、商業エリアの充実等も行い、万博の“ファースト・パビリオン”にふさわしい施設に生まれ変わる。

Ⅱ. 政府への要望

(1)先端産業分野を中心とした民間投資へのさらなるご支援

- 先端産業分野における民間の研究開発や量産体制構築に向けた投資や人材育成に対し、予見可能性が高まるよう複数年度にわたる支援など、政府からのさらなるご支援を期待。
- 特に、蓄電池については、国内基盤強化に向けた電池セル、材料及び製造装置への投資や研究開発、人材育成について一層のご支援を期待。

(2)2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)に向けたご支援

- 万博のコンセプトである「未来社会の実験場」の実現に向け、水素発電技術の実証や水素燃料電池船の商用運航、「空飛ぶクルマ」をはじめとする次世代モビリティの商用運航など、政府の「大阪・関西万博アクションプラン」に記載された項目について、強力なご支援を期待。

- 会員企業への賃上げの働きかけ
- 「パートナーシップ構築宣言」への参加
→当会の理事会社35社すべてが宣言済み